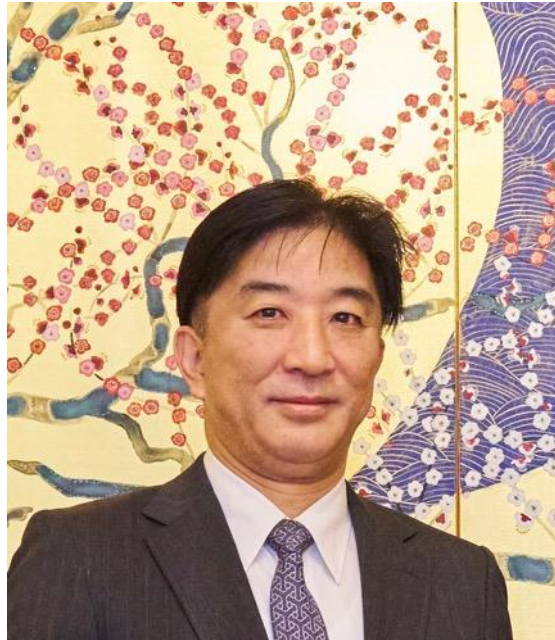


2025年を迎えるにあたって(新年のご挨拶)



新年あけましておめでとうございます。

令和七年(2025年)を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

(2024年を振り返って)

着任一年目の昨年は、年初から慌ただしく諸懸案の対応に追われましたが、ユネスコの活動の各分野で多くの成果を出すことができた、実り多い一年でした。

文化の分野では、7月のインド・ニューデリーでの世界遺産委員会において「佐渡島の金山」が世界遺産に、12月のパラグアイ・アスンシオンでの無形文化遺産政府間会合において「伝統的酒造り」が無形文化遺産に、それぞれ登録されました。関係者の方々の長年のご努力の賜物であり、深い敬意を表するとともに、多くの皆様と喜びを分かち合いたいと思います。

自然・人文社会科学では、防災、水、海洋、AIなど、日本が重視し、また多くの日本人関係者が活躍する分野において、様々な取り組みを行ってきました。特に防災では、ユネスコの役割を一層強化するための仙台防災枠組みの実施に係る決定案を提出

し、秋の執行委員会においてコンセンサスで採択されました。

教育では、日本が長年にわたり推進してきた「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)」がコンセプト段階から、教育政策やカリキュラム、教員養成など国毎の計画実施段階にシフトしています。カリブやアフリカの小島嶼国などで、地域の事情に応じた支援を進めてきました。

ユネスコの前身の国際知的協力機関の時代を含む、過去100年の活動の記録の保全、デジタル化の取り組みにも貢献しました。

ロシアの全面侵略から3年目に入ったウクライナ情勢及び、ガザに加えてレバノン等にも戦火が広がった中東情勢が、ユネスコでの議論にも大きな影響を及ぼしました。これら紛争地域でもユネスコが可能な支援を行えるよう、日本としても協力してきました。

(2025年の展望)

2025年は1945年の第二次世界大戦終結から80年、ユネスコ憲章採択から80年の節目の年です。「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない」と謳うユネスコ憲章の精神は、世界各地で紛争が依然として続く、現在の国際社会において変わらぬ重要性を持っています。

本年はまた、1950年12月に日本がユネスコ加盟を申請してから75年の節目でもあります。日本にとってユネスコは、サンフランシスコ平和条約締結により主権を回復する前に加盟した、戦後の国際社会への復帰の象徴とも言える国際機関です。

戦後80年の本年、ユネスコ憲章の精神とこれまでの日本とユネスコのあゆみに思いを馳せつつ、ユネスコの各分野にわたり日本外交を展開してまいります。

紛争が続くウクライナ、ガザを含む中東での教育、文化面などでのユネスコの活動支援に加え、女子教育の課題等をかかえるアフガニスタンなど、他の地域にも目配りしていきます。

本年は、政府間水文学計画(IHP)の設立から 50 年、その前身である国際水文学 10 年計画(IHD)の設立から 60 年を迎えます。専門家や関係府省・機関と連携しながら、水資源の管理や水災害への対応など、IHP の活動をサポートしてまいります。

海洋分野では、本年6月にニースで国連海洋会議が開催されます。海洋科学の 10

年や、津波・海洋災害の警戒・減災など、我が国の専門家が議長を務める政府間海洋学委員会(IOC)の諸活動を引き続きサポートしてまいります。

新興技術(エマージング・テクノロジー)への対応も重要な課題です。2021年に採択された AI 倫理勧告をアフリカや小島嶼国で実施するためのキャパシティ・ビルディング支援を着実に進めてまいります。本年予定されるニューロテクノロジー倫理勧告の策定では、我が国の立場が適切に反映されるよう積極的に関与してまいります。

発効から2年が経過したユネスコ高等教育世界規約は、加盟国が34カ国まで増加しました。本年6月に開催される第2回政府間会議では、副議長国として引き続き同条約の積極的な執行に貢献していきます。

本年8月に日本が第9回アフリカ開発会議(TICAD IX)を開催するアフリカは、ユネスコが高い優先度をおく地域です。教育、文化等でユネスコとの更なる連携を追求していきます。

世界遺産委員会は本年7月にブルガリア、無形文化遺産保護条約政府間会合は12月にインドで開かれます。日本は無形文化遺産で3件(和紙、伝統建築工匠の技、山・鉾・屋台行事)の拡張申請を行っており、これら案件の意義をしっかりと説明してまいります。9月にスペインのバルセロナでユネスコが主催する文化に関する閣僚会議(モンディアカルト)に向け、国際公共財としての文化面での国際協力をさらに進めていきます。

11月には2年に1度のユネスコ総会がウズベキスタンのサマルカンドで開かれます。パリ以外でユネスコ総会が開かれるのは40年ぶりです。2026/27年度予算の策定をはじめ、ユネスコの活動全般を見渡し、適切な意思決定に貢献してまいります。

特に、今回は4年ぶりのユネスコ事務局長選挙があります。現在2期目のアズレー事務局長の後任事務局長を選定する手続きは既に始まっており、3月半ばの立候補締め切りの後、春の執行委員会での全候補者とのインタビュー、秋の執行委員会での選挙を経て、総会で最終決定されます。ユネスコ加盟以来、切れ目なく執行委員会メンバーを務め、その活動を支えてきた日本として、次の4年のユネスコの舵取りを託すに相応しい候補者をしっかりと見極めてまいります。

ユネスコの主な出来事や日本政府代表部の活動につきましては、

代表部ホームページ https://www.unesco.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

X アカウント <https://x.com/delunescojapan?s=21&t=kuMVWsektZ82GHZKOey9jA>

大使 X アカウント <https://x.com/japanunesco?s=21&t=AXq20UEBIkXpGFh8xN0psA>

で随時ご紹介していきます。

ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2025年1月10日

ユネスコ日本政府代表部

特命全権大使 加納雄大